

4年ぶりに、中国で異文化理解研修が実施されました

8月1日から30日までの間、中華人民共和国北京市にある中央民族大学にて、異文化理解研修（中国）が実施されました。19年夏以来、新型コロナウイルス感染症流行の影響により中止していましたが、この度4年ぶりに実施されました。

参加学生は、14名です。これまで参加できなかった、2年生、3年生の参加もありました。



中央民族大学正門にて

研修では、月曜日から金曜日までの午前中、授業が行われました。授業は、初級クラスと中級クラスの2クラスが設けられ、1、2年生は初級クラス、3年生は中級クラスで学びました。



授業は全て中国語を使って進められました。最初は少し戸惑う学生もいましたが、2、3日で慣れてきて、先生の指示を聞き取れるようになっていました。

初級クラスでは、新出単語を覚え、会話文の暗唱を中心に進めていきました。習った会話文は、そのまま街で使えるようなものばかりでした。学生たちは習った会話文を使って、買い物やレストランでの注文をしたり、中国の学生と交流したりしていました。

中級クラスでは、テキストの内容を基に、学生自身が北京で経験したことを中国語で話していました。また、中国人の学生に中国文化に関する質問をする課題が出され、学生たちは、中国語を使って現地の学生と交流をしていました。

宿舎は、大学西門近くにある留学生宿舎でした。部屋には、ベッド、机、クローゼット、洗濯機があり、シャワーとトイレがある衛生室がついていました。やや古い設備ですが、快適に過ごすことができました。学内のWifiがありました。うまく繋がらない学生もいました。



食事は、大学の学生食堂で食べることができます。値段はとても安く、味も結構おいしかったです。支払いは、専用のカードで行われました。指を指しながら、中国語で「これをください」と言って料理をついでもらい、後はカードでピッと支払います。とても簡単です。朝は、お粥、マントウ（中華風蒸しパン）、パオズ（肉まんなど）、揚げパン、ゆで卵、卵焼き、ソーセージなどが用意されており、ヨーグルトや豆乳を飲むことができます。昼と夜は、様々な料理が用意されており、ご飯だけでなく、うどんやラーメン、スパゲッティを食べることもできます。



学外のレストランで食事することもできます。中央民族大学の周辺には、様々な中華料理のお店だけでなく、少数民族の料理を楽しむことができます。新疆料理の店では、ウイグル族などの料理があり、おいしい羊の肉を堪能できます。タイ族料理の店では、比較

的あっさりした料理が多く、日本人の口に合うようです。中国の料理に飽きたときは、カレーを楽しめる日本の洋食店もあります。



新疆料理の店



タイ族料理の店



北京ダックの店

北京と言えば、北京ダックでしょう。

北京ダックもみんなで楽しみました。

参観活動も、盛りだくさんでした。万里の長城へ見学に行きました。今回は北京の北東にある金山嶺長城です。明代に造られた壮大な長城を目の前にして、これを人が作ったのかと、学生たちは驚くばかりでした。



また、頤和園、円明園も参観しました。いずれも、皇帝が休養の場所として建造した庭

園です。頤和園では、皇帝が蘇州の街を模して作った蘇州街、長廊、清晏舫などを見学し、船に乗って頤和園のシンボルである仏光閣を眺望し、乾隆帝が建造した十七孔橋を渡り、光緒帝が幽閉された玉瀾堂、皇帝が政務を行った仁寿殿などを見学しました。円明園では、主に第二次アヘン戦争で破壊された西洋建築物の跡を見て回りました。



頤和園 蘇州街



頤和園 昆明湖から仏光閣を望む

さらに、周口店遺跡博物館、盧溝橋にある中国人民抗日戦争紀念館を見学しました。周口店は北京原人が発掘された地です。現在発掘現場は見学することができず、博物館で北京原人や太古の人々の生活様式について学ぶことができます。盧溝橋は、7月末の洪水のため、通行ができず、バスの中からその姿を見ることしかできませんでした。中国人民抗日戦争紀念館では、日中戦争を中国の立場で見る機会を得ました。



周口店遺跡博物館



中国人民抗日戦争紀念館

この他にも、国家博物館、天安門広場、雍和宮、孔廟（孔子廟）、国子監、天壇公園などを参観し、雑技（中国のサーカス）を鑑賞しました。残念なことは、今回、故宮（紫禁城）を見学できなかったことです。入場には事前の予約が必要で、一日の入場人数を制限されているため、団体での入場が大変困難になっており、見学を断念せざるを得ませんでした。



天安門広場



天壇公園

学生たちは、すぐに北京の生活に慣れ、バスや地下鉄に乗って繁華街へ遊びに行き、買い物や街歩きを楽しんでいました。現在、北京では「アリペイ」「WeChatペイ」などによるキャッシュレス化が進み、スマホによって決済が行われています。外国人のために、一部クレジットカードを通しての決済も可能になっていました。それをうまく利用して買い物を楽しむ学生もいたようです。

帰国後、研修に参加した学生たちの感想には、「中国の様々な場所に行くことができ、とても貴重な体験ができました。万里の長城や頤和園など世界遺産に行くことができ、中国の雑技を鑑賞することもできました。想像以上の大きさに驚かされました。また、中国語の授業も楽しく、勉強のモチベーションになりました」、「日本を離れてみることで外国から日本はどう思われているのか、日本のいいところ・足りないところを改めて考えることができた。中国に行って学ぶことで日本で今私が将来のためにすべきことが明確になり大学で学べることの大切さ・楽しさを知ることができた」など、積極的なものが見られました。



学生たちは、北京の街を歩き、異文化に直に触れ、多くのものを得たようでした。この経験が彼らの今後の学修、研究に活かされることを強く願っています。

(文責：犬塚優司)